

通園運動会

通園 運動会担当

10月16日（日曜日）、昨年は雨のためできなかった運動会が、今年は天気恵まれ、無事に園庭で行うことができました。午前にはさくら組・ゆり組、午後にはたんぽぽ組・ちゅうりっぷ組と、2クラスずつに分け、感染対策もバッチリ。

午前は、年長児4名の「はじめの言葉」から始まり、音楽に合わせて「フレー！フレー！」とみんなを応援してくれました。競技では、さくら組は「はらぺこあおむし」、ゆり組は「どうぶつえん」をテーマに、職員と練習した成果を発揮し、ご家族の皆さんに見てもらうことができました。

午後になると日差しが強くなり、汗がにじむほどでした。そんな中、初めての運動会のたんぽぽ組・ちゅうりっぷ組は「フルーツバスケット」をテーマに、緊張しながらも親子で頑張りました。

競技はもちろん、歌、ダンスなど、子どもたち、家族、職員全員で楽しみました♪



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第538号 発行日 令和4年10月31日

☆ 第14回 府中療育センター祭特集 ☆

生活療育支援科 田口美穂

10月21日（金曜日）、22日（土曜日）は、第14回府中療育センター祭（以下「センター祭」）のイベント日でした。イベントに先駆け、9月21日（水曜日）から全体制作「みんなの夢をのせて!」、10月17日（月曜日）からは鉄道の旅スタンプラリーが始まり、少しずつお祭り気分が高まっていき、10月19日（水曜日）に各部署の展示が出揃うと、まもなくイベント当日となりました。

それでは、センター祭のイベントをご案内します。院長の館内放送による「開会のあいさつ」でスタートしました。同時に、センター祭キャラクター「メタセこいやん」をはじめとしたチンドン屋さん一行が、にぎやかに各所を練り歩いてお祭りを宣伝しました。

今年は、皆さんに少しでもゆっくりゆったり楽しんでいただけるよう、会場を1階と2階に設定して実施しました。1階は「ゲーム」コーナーで、『ゲーセン・ザ・ハロウィン』をテーマに、ハロウィンの衣装を身に着けた職員がお出迎え。理学療法室には、ちょっと暗めの室内に、ブラックライトに浮かび上がるスマートボール、クレーンゲーム、的あてが。作業療法室は明るいけれどもちょっと怪しいハロウィン飾りの中に、スロットゲームと太鼓の達人、スペシャルプリクラが設置されていました。景品もたくさん用意されており、皆さん思い思いにゲームを楽しみ、景品をゲットして、ゲームセンターを満喫していました。

また、スペシャルプリクラは、会場に来られない利用者さんのために、各病棟にも出張しました。盛り盛り（もりもり）の美男美女になった方、ちょい盛りの美男美女になった方、いつもとあまり変わらない美男美女の方、様々だったようですが、できあがったシールは、面会のご家族にも見て楽しんでいただけたということです。（2面、3面へ続く）



ゲームコーナーの様子

理学療法室でのクレーンゲーム



☆ 第14回 府中療育センター祭特集 ☆



感覚刺激コーナー



スヌーズレン室の様子



食べ物コーナー



武蔵台学園の製品

2階に移動しましょう。ラウンジこかげは、コロナ禍にあっても継続し、また工夫して関わってくださっているボランティアさんの紹介コーナーでした。ボランティアの皆さまには、後日、感謝の気持ちを込めて表彰状や感謝状をお届けする予定です。お隣は認定看護師会のブース企画で、それぞれの専門分野からの「日常ケアのワンポイントアドバイス」の入ったウェットティッシュを配布していました。

廊下を進むと、各部署で工夫を凝らした展示作品の数々が壁面を彩っています。展示期間終了の11月1日（火曜日）まで、力作をじっくりと堪能したいと思います。そして、各室内には、「感覚刺激」コーナーや利用者の方のための「食べ物」コーナー、外部団体の出店、最奥の多目的ホールに「芸能」コーナーがありました。

「感覚刺激」コーナーのテーマは『鉄道の旅150周年』。車窓を流れる風景を横にガタゴトと電車の揺れを味わい、吊革や砂に触れたり、日本各地のお祭りの映像や走るプラレールを眺めたりして楽しみました。もう一つ、鉄道に関する映像を中心として、さらにゆったり気分を味わえる個室もあり、五感の癒されるコーナーとなっていました。またこのコーナーは、イベント日に先駆けて始まった「全体制作」や「スタンプラリー」も担当していました。

みんなの夢を乗せた機関車を完成させたり、さくら駅から芽多瀬駅までのスタンプラリー特別乗車券を発行したりと、盛り沢山のコーナーでした。

利用者の方のための「食べ物」コーナーは、各部署からの注文を受けてのデリバリーが中心でした。事前アンケートの「あんこを食べたい」のリクエストに応じて水ようかんも入荷し、それぞれの部署にご希望の品物をお届けしました。さらに、イベント会場にも机を出して、その時の気分で選びたい方達のために商品を並べました。「水ようかん…いや、わたあめかな？ うーん…」と悩む方あり、ブラックコーヒー即決の方あり、通りかかった職員も「たまごボーロ、懐かしい」と足を止めていました。

センター外部からは、「食彩さしすせそ」さん、「ワークセンターこむたん」さん、「ギャロップ」さん、そして久しぶりに「武蔵台学園」さんが、感染対策を万全にして、それぞれ自慢の商品をお持ちくださいました。お昼時の食べ物のお店は、職員がパンや焼き菓子を選んだり、揚げ物の入荷待ちで列を作ったりと賑わいました。また、武蔵台学園の高校生は、作業学習で作った製品を販売。お皿やペンケース、写真立てなどを、お客さんと丁寧にやり取りしながら、上手に売り込んでいました。

最後は「芸能」コーナーです。通所部門（【明るい未来へ～Let's Go～】）や府中けやきの森学園くぬぎ分教室（【『ギフト』～とどけ、わたしたちの想い～】）、同じく府中けやきの森学園和太鼓部（【メッセージ～一生懸命に生きる～】）の皆さんが、それぞれVTRで日ごろの成果を披露し、また思いのこもったメッセージを届けてくださいました。VTRの良いところは、何度でも上映できることです。会場では、繰り返し再生して、心を動かされる映像を多くの人にご覧いただくことができました。

特別公演は、タップダンス・コメディユニットの「TAP DO!」の皆さんのリズム・エンターテイメントショーでした。感染症対策で観覧者を制限するため、2日間で5公演という過密なスケジュールをお願いしたのですが、どの回でも変わらぬ熱いステージを披露してくださいました。世界でも活躍されているTAP DO!さんのショーは、ダンスやジャグリング、ストンプなど息つく間もないパフォーマンスの連続で、利用者や職員は、あっという間に引き込まれ、身体中で楽しんでいました。そしてこの特別公演は、病棟にオンライン中継しました。初の試みで、音声が聞こえない等のトラブルはありましたが、会場に来られない利用者さんに、少しでもにぎやかな雰囲気をお伝えできたなら嬉しいです。

また「芸能」コーナーは、お祭りのスタートを盛り上げたチンドン屋のパフォーマンスも担当し、各病棟が趣向をこらした「人生の節目を祝う会」にも参加しました。今年は還暦から傘寿までの方が人生の節目を迎えられ、院長や副院長が各病棟を訪問し、対象の皆様の長寿をことほぎ、記念品を贈りました。

2日間のイベントは、館内放送による事務長の「閉会のあいさつ」で締めくくりとなりました。引き続きのコロナ禍であり、入所、通所のご家族や地域住民、ボランティアの方のご参加は今年も見送りとさせていただきますが、入所・通所・通園の各部門の利用者の皆さまと職員とで、工夫し協力して作り上げたセンター祭で、楽しいひと時を過ごすことができたのではないのでしょうか。

センター祭にご理解ご協力いただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。



TAP DO!のショー



展示コーナー



全体制作～みんなの夢をのせて～